

# 令和2年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	関屋分水路通水50周年イベント	事業経緯	継続	実施体制	協力	担当所属	新潟支所
事業名 (大項目)	地域の利用・整備・保全に関する広報事業	分類名 (中項目)	表彰活動支援事業		事業区分	表彰、コンクール	

## 1. 事業目的

信濃川関屋分水路は、信濃川を洪水から守ることや新潟港にたまる土砂を減らすことを主な目的に1972年通水し、新潟市街地の発展を支えてきた。2022年、通水から50年の節目を迎える機会に、大切なふるさとの川・信濃川の豊かな恵みに感謝しつつ、先人の努力をたたえ、関屋分水路が地域により理解され未来へ引き継いでいくためにアニバーサリー事業を行うものである。

## 2. 事業実施体制

主催：大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念  
未来につながる事業実行準備会  
国土交通省信濃川河川事務所・信濃川下流河川事務所、新潟県土木部、新潟市、長岡市、三条市、加茂市、見附市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町  
協力：(一社)北陸地域づくり協会

## 3. 事業実施概要

### ◆関屋分水路シンボルマークの募集

#### ▶ 募集概要

- ① 募集日程：令和2年9月23日(水)～11月30日(月)
- ② 応募資格：制限なし
- ③ 応募点数：273点
- ④ 表彰：最優秀作品 1、優秀作品 4 計5点

#### ▶ 審査・表彰及び入賞作品公開

- ① 審査員：新潟デザイン専門学校副校長、実行準備会委員
- ② 表彰式：令和3年3月23日(火) 信濃川下流河川事務所にて
- ④ 入賞作品公開・活用：
  - ・信濃川下流河川事務所の特設HPで公開
  - ・50周年事業、名刺・封筒ほか各種資料にて活用

## 4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

地元住民から「新潟島」と呼ばれる新潟市街地は日本海と信濃川、そして1972年に通水した関屋分水路に囲まれたことで生まれた呼称である。市民に身近な存在であるにも関わらず、それゆえその重要性への意識が希薄化している昨今、この一連の事業を通じ認識の更新が期待される。この取り組みでは300点近い作品の応募があり、結果発表を含め報道でも大きく取り上げられ、関屋分水にあらためて広く関心が向けられたことが伺える。最優秀作品は、関屋分水が新潟市域を守り、安らぎを与える存在であることが表現されており、今後広く浸透していくことが望まれる。



表彰式 / 最優秀賞受賞者



↑ 最優秀・優秀作品  
HPでの入賞作品公開 →

